

もっと広がる クスリの世界

抗アレルギー薬

アレルギーは、免疫系が本来害のない物質に過剰に反応することで引き起こされる症状のことです。花粉症や食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、ぜんそくなど、さまざまな種類があります。アレルギーを引き起こす原因物質には、花粉、ハウスダスト、ダニ、食べ物、動物の毛などがあり、これらに触れることでくし

上手に活用し快適生活

みや鼻水、皮膚のかゆみ、呼吸困難などの症状が現れます。

アレルギーの症状を抑えるために用いられるのが抗アレルギー薬です。これには大きく分けて抗ヒスタミン薬、抗ロイコトリエン薬、ステロイド薬などがあります。

抗ヒスタミン薬は、くしゃみや鼻水、かゆみなどを引き起こすヒスタミンの作用を抑え、症状を軽減する薬です。

抗ロイコトリエン薬は、アレルギー炎症を引き起こす物質の一つであるロイコトリエンの作用を抑え、鼻づまりやぜんそくの症状を軽減します。特に花粉症に

おいては期待する効果の違いにより抗ヒスタミン薬と併用されることが多く見られます。

ステロイド薬はアレルギー反応全体を強力に抑える働きがあります。炎症を鎮め、鼻づまりや皮膚のかゆみ、気管支の炎症などを改善します。点鼻薬や吸入薬、外用薬、内服薬などがあり、症状に応じて使い分けられます。長期間の使用には副作用のリスクがあるため、医師の指示に従うことが重要です。

抗アレルギー薬は、正しく使用すれば症状を和らげるのに非常に有効ですが、自己判断での使用や過剰摂取は避けるべ

きです。特に、眠気を引き起こす可能性のある薬は、車の運転や集中力を要する作業に注意が必要です。また、症状がひどい場合や長引く場合は、自己判断せずに医師や薬剤師に相談しましょう。

アレルギーは完全に治すことが難しい病気ですが、抗アレルギー薬を上手に活用することで、日常生活の快適さを維持できます。正しい知識を持ち、適切に薬を使うことが大切です。

(伊藤 邦彦・県薬剤師会常務理事、
県立大薬学部教授)

<毎月第4火曜日に掲載>